

| | | |
|-------------------------------|---|--|
| <p>学校関係者 評価委員の 所見</p> | <p>【「しっかり考える子」をはぐくむ】 ○教職員の評価が高い時には保護者の評価が低く、保護者の評価が高い時には、教職員の評価が低い傾向が見られるので、その原因を探ってみる必要があるのではないか。</p> <p>○複式学級になって子どもたちも不安を感じているようである。違う学年の友達と同じクラスになることで、これまでなかったトラブルもあるのではないか。</p> <p>○参観日を見て、複式指導は大変だ。それを行う先生方はすごいと思う。 ○複式学習のルールを全学級に掲示して児童に見えるようにしていることは、ルールを徹底していくのに効果的である。 ○学習リーダーの育成が必要である。大きい学校でも、クラスに「小さい先生」というシステムがあるのを聞いたことがある。 ○家庭での学習用具の準備などは、子ども任せにせず、子どもがした後に確認をすとか、親子が一緒にすとかしていくとよいのではないか。</p> <p>【「もくもくとがんばる子」をはぐくむ】 ○すべての項目が高い評価となっており、先生方の頑張りが感じられる。 ○下灘太鼓は伝統である。発表の場面で、太鼓の一部が革の緩みや破れによって音が十分に出ていない状況が見られた。修理の状況はどのようになっているか。 ○かつて太鼓の指導をしていたときに、本物の太鼓演奏を聞かせたことがある。そのような場面を作るのも効果的である。</p> <p>【「なかよく明るい子」をはぐくむ】 ○地域の方で聞く限り、子どもたちの挨拶の様子は良い。 ○保育所に来る時にもよく挨拶をしてくれている。 ○今日は、機嫌が悪いのかなと感じるような子もいるが、全体として挨拶がよくできていると感じる。</p> <p>【管理・運営の徹底】 ○事務職員が学校にいないのは大変なのではないか。PTA事務職員なども置いたほうが、業務改善につながるのではないだろうか。</p> | <p>【「しっかり考える子」をはぐくむ】 ○学校での授業に関する項目で、教職員は直接見ている場面だが、保護者は参観日を除き、直接見ることはできない。今年度は完全複式学級となり、保護者は複式授業に対して不安を感じていることが考えられる。教職員は、複式授業の指導技術を高められるよう研修に努めていく。 ○複式学級になることで、新しいクラスメートとのトラブルになることもある。今後は、複式学級になることで、毎年新しい友達との出会いがあることがプラスになり、人間関係を広げたり、多くの考え方に触れたりすることができるよう、温もりのある学級づくりに努めていく。</p> <p>○複式学習のルールの有効活用や状況に応じた指導を通して、適切な学習道具の準備や学習規律等の徹底を図る。また、相手を意識した話し方や聞き方できるように学習リーダーの育成を図っていく。</p> <p>○学校での子どもの状況を必要に応じて、全体、又は個別に家庭に知らせ、課題がある場合には学校と家庭が共通理解のもとで、子どもの支援に当たれるようにしていく。</p> <p>【「もくもくとがんばる子」をはぐくむ】 ○現在、市や地域の協力を得て、順次太鼓の修理をしていく手立てをしている。 ○下灘太鼓への取組を通して、下灘太鼓の伝統や歴史を知り、これからも継承と発展に努めていこうとする心情を育てる。また、学校ボランティア等の地域人材の活用や地域貢献を行い、地域を誇りに思い、大切にしていこうとする気持ちを育てる。</p> <p>【「なかよく明るい子」をはぐくむ】 ○いつでも、どこでも、誰にでも気持ちの良い挨拶ができるよう、今後さらに、委員会活動を中心にして挨拶がよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶したり、校内では会釈をしたりするなど、相手や場に応じた挨拶を意識していくよう指導を続け、進んで気持ちの良い挨拶ができる児童を育てていく。</p> <p>【管理・運営の徹底】 ○事務的業務に加え、様々なICT学習システム導入のため、その操作方法を覚えるのにも多大な時間がかかる。教職員一人一人が、早くシステムの操作スキルを身に付け、効率的に業務を進めることができるようになることで負担増加を防ぎたい。また、行事の精選、縮小、会議等の縮減、文書のペーパーレス化や簡素化等に取り組み、更なる改善につなげていく。</p> <p>学校の対応</p> |
|-------------------------------|---|--|